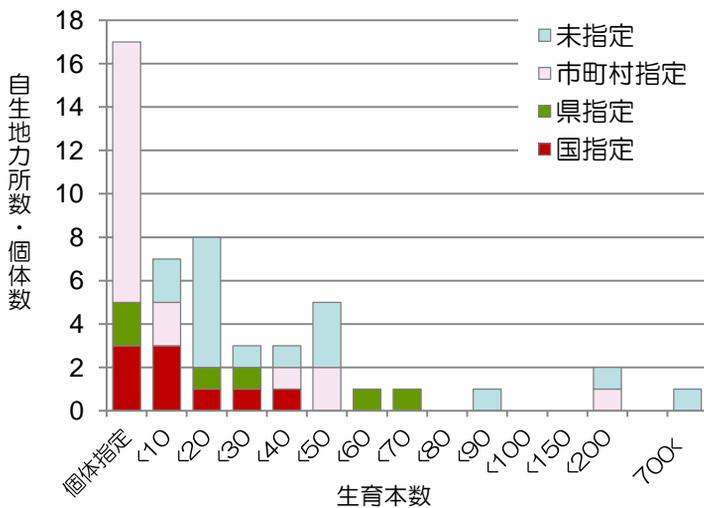


ハナノキ自生地の現状と保全

天然記念物指定主体別ハナノキの主な自生地・個体数

指定主体	個体指定	自生地指定	湿地指定	計
国指定	3 (うち1個体は枯れ)	6	-	9
県指定	2	3	1	6
市町村指定	12	6	-	18
天然記念物計	17	15	1	33
未指定の主な自生地 (孤立個体は除く)	-	16	-	16

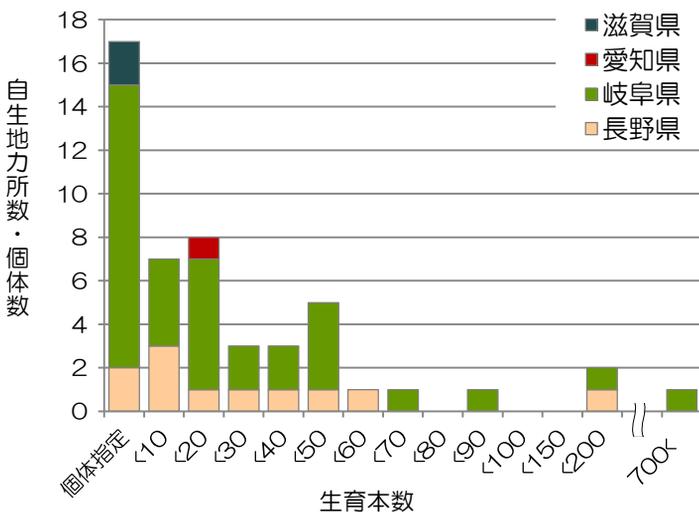
主なハナノキ自生地の規模



現在、国により天然記念物に指定されているハナノキの自生地は6カ所ありますが、その集団の規模は極めて小さい状況です。これは、天然記念物制度の初期に、ハナノキの希少価値からその発見場所に設定されたものであり、自生地の保護・保全が十分考慮されていなかったためと考えられます。

県や市町村指定の天然記念物である自生地においても同様の状況がみられ、生育するハナノキが100個体を越える自生地は1カ所（土岐市泉町五斗蒔地区）のみです。

天然記念物指定主体別ハナノキの生育本数クラス別の自生地数 (個体指定は天然記念物についてのみ)



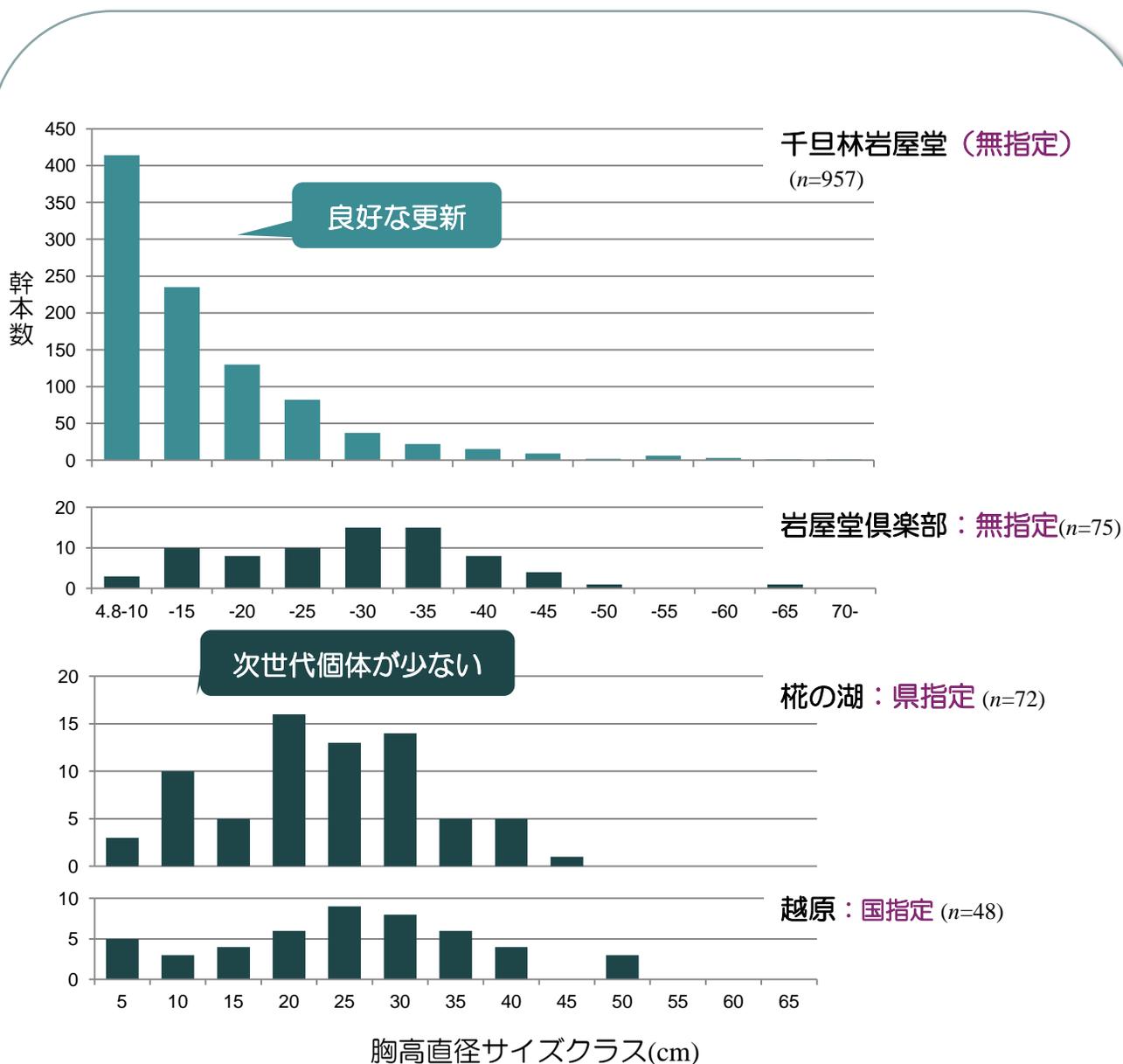
天然記念物に指定されていないハナノキの主な自生地も含めて、集団あたりの個体数についてみると、ハナノキ自生地の9割以上が60個体以下です。

これまでに報告されたハナノキ集団の中で100個体以上の分布が確認されているのは、岩屋堂地区と上述の五斗蒔地区に加え、飯田市（長野県）の3カ所に過ぎません。

千旦林岩屋堂自生地
(ハナノキ自生地の中で国内最大)

県別ハナノキの生育本数クラス別の自生地数 (個体指定は天然記念物についてのみ)

ハナノキ自生地における更新不良



ハナノキ自生地における幹のサイズ分布の例



▲岐阜県瑞浪市
国指定天然記念物「釜戸ハナノキ自生地」

天然記念物に指定された自生地であっても、他の多くのハナノキ自生地と同様に、次世代の更新が見られず、その存続が危ぶまれる現状にあります。

このような中で、岩屋堂のように連続的に700個体を超えるハナノキが生育し、かつ旺盛な更新が行われている自生地は、他の地域には全く見られず、ハナノキに対する保全生態学的知見を得るために貴重な集団といえます。